



「マダニ」に注意しましょう

国保京丹波町病院 看護師
たなか みゆき
田中 美由紀

暦は秋になっても長く夏が続きました。夏には昆虫採集、秋は趣味の山登りと行楽を楽しむ方も多と思います。またお仕事で山に入る方もおられるでしょう。今回、お仕事や趣味のために野山で活動される皆さんにダニの仲間である「マダニ」についてお話します。



最近では昼間でも家の近所でシカに出くわすことがありますよね。マダニはシカ、イノシシ、野ウサギ、野ネズミなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。その野生動物たちが家の近くにまで来てウロウロしているため、野山だけでなく畑や家の周囲でもマダニに噛まれる事例が出てきました。

マダニは、日本紅斑熱^{にほんこうはんねつ}やライム病、クリミアコンゴ出血熱などウイルス感染症の原因になります。中でも一番注意しなければならないのは、重症熱血小板減少症候群です。この病気は、マダニに噛まれて6日目から2週間程度の潜伏期間の後、38度以上の発熱や消化器症状（食欲低下、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛）、体のだるさ、リンパの腫れ、出血などの症状が出ます。これを放置しておくと、脳や消化器、肺などの重要な臓器から出血が起こり、命に関わります。



マダニ対策の基本は、とにかく噛まれないようにすることです。野山の作業や動物がウロウロするような場所に行くときは必ず腕、足、首など肌が露出しないようにし、作業後も作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。また、作業後はお風呂に入って、ダニが付いていないか確かめましょう。

もし、マダニに噛まれていたら、多くは長時間、10日以上も吸血することがあります。血を吸っているマダニは無理に取り除かず、皮膚科や医療機関で適切な処置を受けま

しょう。そして、数週間は体調の変化に気をつけ、発熱などの症状があった場合はすぐに受診しましょう。

